

「二」 次の文章を読んで後の問に答えなさい。

著作権上の都合により文章の
掲載はできません

著作権上の都合により文章の
掲載はできません

(五味太郎「クロス・プレー」)

問一

部 a・b と同じ意味で用いられているものをそれぞれ選びなさい。

a 「まかり通る」

- 1 町内の商店街ではエコバッグ持参の呼びかけがまかり通っている
- 2 わが家では食事中にテレビを見ないというきまりがまかり通っている
- 3 最近では電車の中でも携帯電話で通話する行為がまかり通っている
- 4 私たちの学校では大声でいっせいにするあいさつがまかり通っている

b 「裏うちされた」

- 1 ピアノのコンクールに出場した A さんは信念に裏うちされた演奏で優勝した
- 2 この絹織物の染色には長年の伝統に裏うちされた確かな技術が生きている
- 3 秋の箱根は紅葉に裏うちされたけしきの美しさで多くの人をひきつけている
- 4 この劇の上演には原作の小説に裏うちされた忠実な脚本が用いられている

問二 — 部「ちょっとした教育的見地」とは具体的にどのようなことですか。

- 1 審判を務める人がなくては正しい野球を覚えることができず、生徒がかわいそうだという考え
- 2 たとえ草野球でも学校の校庭で行われる以上、必ず教職員が立ち会う必要があるという考え
- 3 教職員が仕事もなくひまであることを生徒に見せるのは、生徒に良い影響^{えいきやう}を与えないという考え
- 4 他にこれといって仕事もない時に野球の審判を務めるのも、生徒の指導のうちだという考え

問三 — 部「お決まりのトラブル」とありますが、どういうことですか。

- 1 自分の側のチームをひいきする公正でない判定をめぐって、いつもめんどごとが起こること
- 2 野球を知らないのに知ったかぶりをする審判の強引な判定をめぐって、いつも不満が出ること
- 3 敵も味方もみんな身内なのにどちらを応援するかをめぐって、いつもけんかになること
- 4 教師や用務員の審判の代わりをだれがするかをめぐって、いつも大さわぎになること

問四 — 部「審判をかって出てくる人には不信感を持っていて」とありますが、なぜ不信感を持っているのですか。

- 1 喜んで審判をすると言う人は、選手のごきげんをうかがって不公平な判定をしがちだったから
- 2 自分からすすんで審判をしようと言う人は、野球のことをよく知らない場合が多かったから
- 3 審判をしたいとしゃべる人は、口うるさく、子供を見下した態度をとる人が多かったから
- 4 見るに見かねて審判を引き受けてくれる人は、めんどろ見はよくても野球には無関心だったから

問五 — 部「一応点検しているといった様子」とありますが、「ぼく」の目には「警官」がどのように見えていますか。

- 1 ほんとうはぼくたちの野球を見たいから、わざわざ広場のパトロールをしている

問六 — 部「少し厳しい顔になって」とありますが、なぜですか。

- 1 いくら警官という職業が審判に向いているとはいえ、子どもたちの大切な試合を任せられることになり、きん張したから
- 2 審判の仕事には自信があるのに、酒屋のおやじさんやセールスマンがいなくてしかたなく頼まれたことが不満だったから
- 3 内心審判がやりたくてうずうずしていたが、やりたそうな顔を見せると、少年たちに軽く見られてしま
- 4 審判を頼まれたのはうれしかったが、そのときはまだ勤務中であり、引き受けられるかどうかかわらな

問七 — 部「具体的に不安になった」とありますが、ここでの「具体的」な「不安」とはどういうことですか。二十字以内で書きなさい。

問八 — 部「平面的美学の持ち主たち」とはどんな考えをする人たちですか。

問九 — に入る言葉を書きなさい。

問十 — 部「彼は墨上のぼくに向かって、それでいいと手をふった」とありますが、その時の「警官」を「ぼく」はどのように見えていますか。

- 1 ぼくが全力で走ったのを見て、自分の教え方の正しさを確認し、ほっとしている
- 2 ぼく自身が適切な判断でプレーできるようになったことを、高く評価している
- 3 ぼくが自分の指示どおりにプレーしたと思い、ぼくをほめ、力づけている
- 4 今までかくれていたぼくの才能がようやく現れてきたと満足し、喜んでいる

問十一 — 部「ぼくは二盗に成功してちょっと上気していたのか、警官に手をふり返したような気がする。そして三墨へも盗墨を決めた時には、ぼくの方から先に手をふった」ときの「ぼく」の説明としてふさわしいものを選びなさい。

- 1 警官の野球に対する熱意に、自分でも気づかぬうちにしだいに引きこまれている
- 2 警官のおかげでなく自分の力で盗墨に成功したことを、警官に示そうとしている
- 3 何としても勝とうとする意気込みを見せて、チームに活力を与えようとしている
- 4 調子が出なかった自分がたて続けに盗墨を決めて、自分でもふしぎに思っている

問十二 — 部「そしてキャッチャーとぼくはからみ合ったまま審判の声を待ったのだが、声がない。ぼくは警官を見上げた。彼は顔を紅潮させて『ううっ』と声をつめていた」ときの「警官」はどのような気持でしたか。六十字以内で書きなさい。

問十三 — 部「出来る人」とはどのような人ですか。四十字以内で書きなさい。

「二」次の文章を読んで後の問に答えなさい。

食生活での変化は、家庭内での主婦の仕事を社会の側へ委託してきたことだけではない。家庭で食事をするということは、家族そろって共食をするということである。一日三回の食事には家族全員がそろって食卓を囲むのが、かつてはこの家庭でも見られた光景であった。明治時代になって教育制度が整備されてくると子供たちは学校に通うようになり、一方では工業化が進んで都会型の生活が広まるにつれて働きにでる人がふえてきた。昼の弁当を持って出かける人がふえるにつれて、家庭の共食の場という面では「ひるめし」は影のうすい存在になってしまった。

変化はそれだけにとどまらない。昼食が弁当あるいは外食に変わっても、朝食と夕食は家族そろっての共食の場として残っていた。しかし、住宅地域が都心から郊外へと広がり、学校や勤め先が遠くなるのにもなって、朝食の個人化がきわだって目立つようになってきた。出勤や通学などの時間にあわせて、家族の一人一人が自分の都合のよいときに朝食をとる、そのような生活パターンを持つ家庭が確実にふえてきているのである。社会の側への依存度の高い昼食とは異なって、朝食は家庭の側で準備する食事であるにもかかわらず、家族の共食の場という意味あいはいはうすれつつある。このようにして家庭では、家族の共食の場が目に見えて減ってきているのである。

「上の子供が中学に行きだしてから、給食がないので毎日のように弁当を作らなければならなくなった。その手間も大変であるが、おかずを選ぶのがそれに輪を」
 問一 A めんどうである。最近になって、学校給食のありがたさがよくわかった」とは、ある母親の学校給食に関する率直な意見である。母親にとって朝の弁当づくりというのは一大作業であり、学校給食は弁当づくりの手間を省いてくれるので、おおいに助かっていることをはっきりと認めた発言である。このような考え方が大多数の母親に共通する潜在的な意識であることにまちがいはないで

あろう。

学校給食があるから子供の弁当は作らなくてすむ。それならついでに主人の弁当づくりも省略して、職場での給食かあるいは外食で昼食をすませてもらおう、つまり外へ出かけてゆく家族の昼食はすべて社会の側へゆだねてしまおう、と考えるのは自然のなりゆきである。多くの職場では給食が行われ、オフィス街には食べ物屋が軒を^{問一}おり、昼食を外食ですませることに何の支障もない。こうして、学校給食の定着が昼食を手づくりの弁当から社会の側が用意する外食へと変化させるきっかけとなったのである。歴史には「もし」はないといわれるが、「もし」学校給食が定着していなかったら、主婦は毎朝子供の弁当を作らなければならない状況^{きょう}にあったはずであり、現在のような昼食の形はできていなかったのではなかろうか。

家庭の側から見ると、昼食は主婦の管理の下から完全に切り離されてしまい、家族の一人一人がてんでんばらばらに食べているのが現実の姿である。昼食を家庭で食べているのは幼児のいる家庭あるいはお年寄りの家庭だけになってしまった。それらの家庭でも昼食にはインスタントのめん類や、パンにハムと牛乳といった加工食品がよく食べられており、社会の側への依存度の高い昼食になっている。

一方、日本人の多くは学校や勤め先など家庭の外で、給食も含めた広い意味での外食で昼食をすませている。つまり、外で食べる昼食の場合は、調理から後片付けまで、食べることを除いて食事のプロセスのすべてを社会の側に依存するわけである。家庭で毎日毎日弁当を作ることを大変と思う意識があり、かたや学校給食が存続するかぎり、昼食を社会の側へ頼る傾向は強まることはあっても、弱まることはないであろう。

現代では幼稚園での三年保育も当たり前のことになり、家事のなかではもっとも大切な育児の一部さえも社会の側にまかせるのが当たり前になるなど、衣食住だけではなく生活文化の多くの面で社会への依存度が高まっている。社会への依存度が大きくなれば、家庭内での仕事の量は当然のことながら減り、余暇^{あひま}の時間がふえてくる。

主婦の義務であった料理も男女を問わず多くの人が参加できる趣味となる可能性が高い。つまり日常の食事はインスタントものなどの加工食品にちょっと手を加えるだけですませ、あるいはてんやものや持ち帰り弁当なども含めた外食ですませておき、ときどき家族がそろうときに大ごちそうを作るといったことが、近い将来の食事の姿としてえがけるのではなかろうか。一日三回の食事のなかでも社会の側への依存度がきわめて高く、家族のきずなを感じることがもっとも少ないのが昼食である。休日の昼食には家族そろって庭や郊外でバーベキューを楽しんだり、親子が力をあわせて昼のごちそうを作ったり、あるいは日ごろ家庭サービスの十分でない父親が家族のために腕をふるったり、昼食はこのような要素をとりこんだ食事という側面を持つようになるであろう。昼食時に家族全員がそろって共食をすることによって、うすれつつあった家族の連帯感を取りもどすための絶好の機会となるのではなかろうか。

(酒井伸雄『日本人のひるめし』(中央公論新社))

問一 部 A・B に入る言葉を、ひらがなで A は三字、B は四字で書きなさい。

問二 部 「家庭の共食の場という面では『ひるめし』は影のうすい存在になってしまった」とありますが、どういうことですか。

問三 部 「朝食の個人化」の原因は何ですか。四十字以内で書きなさい。

問四 部 学校給食は「ひるめし」にどのような影響がありましたか。四十字以内でぬき出し、始めと終わりの五字を書きなさい。

問五 部 「家族のきずなを感じることがもっとも少ないのが昼食である」とありますが、どうすれば「家族のきずな」を感じることができると筆者は言っていますか。その条件を二つ書きなさい。

問六 部 社会に依存する生活や文化についてあなたが考えることを百六十字以上、百八十字以内で書きなさい。

〔三〕 次の間に答えなさい。

(1) 次の各文から、主語と述語の関係になっている部分をぬき出し、主語、述語の順で記号を書きなさい。

1 教室の ゆかは わたしが そうじしました。

2 高山植物が さき乱れる 山を 目ざして 登る。

(2) 次の各文の~~~~部はどの部分を修飾していますか。それぞれ記号を書きなさい。

1 昨日は 朝から はげしい 雨が 降って、 交通機関に 混乱が 生じた。

2 わたしは ぼうぜんと 立ち去る 友の 後ろすがたを 見送った。

〔四〕 次の——部1～6のカタカナの部分を漢字で書きなさい。また、——部7～10の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

原因をセイサする フセキを打つ 苦情についてゼンシヨする がけのキワを歩く

カンバンをあげる キシヨウ価値 傷む 座右の銘 消印 短冊